

人物の気持ちを考えながら読もう

「サーカスのライオン」 川村 たかし

登場人物の人物ぞうをとらえよう。

登場人物

じんざ (ライオン) サーカスのおじさん 男の子



	根きよとなる言葉や文	想像できること
男の子	<ul style="list-style-type: none"> ・うん大好き ・お父さんは、夜のつとめがあつて ・お母さんは入院 ・お姉さんも夕方から出かけていた 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライオンがすき ・ひとりぼっち ・さびしい ・家にだれもない
じんざ	<ul style="list-style-type: none"> ・年とつていた ・いつもアフリカのゆめを見た ・のそりと立ち上がる ・じんざは、三回四回くり返した ・おまえの目も白くにごつてしまつたぞ ・わしはおいぼれだよ 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気がない ・アフリカに帰りたい ・もう動けない ・火のわくぐりはもうあきている ・目が見えないかも ・おじいさんみたい

じんざ…年を取って元気がなく、サーカスのやる気もあまりないライオン
 男の子…サーカスのライオンが大好きな男の子

【3 / 8時間目 指導略案】 使用するワークシート③
 活動のねらい

叙述から、じんざと男の子の人物像について読み取ることができるようにする。

1 本時のめあてを確認する。

- 単元のめあて「人物の気持ちを考えながら読もう」を達成するためには、初めに登場人物の置かれている状況をとらえておくことが大切であることを伝える。

2 じんざや男の子の性格や置かれている状況について読み取る。

【発問】じんざ、男の子はどんな人(ライオン)でしょう。また、そのわけも説明しましょう。

- 登場人物のことが分かる言葉や文に線を引かせ、そこから想像できるじんざや少年の性格やおかれている状況をワークシートに書かせる。

3 じんざや男の子の人物像について話し合う。

- 根拠となる言葉や文を基に、想像したことを話すようにさせる。

4 じんざ、男の子の人物像をそれぞれ一文で表す。

- じんざは年老いて生きる気力をなくしていること、男の子は孤独で寂しい思いをしているが、サーカスのライオンが好きであることなどにふれる。

【評価】 叙述から登場人物の人物像を読み取っている。(イ1)

5 本時の学習を振り返り、次時は二の場面を学習することを知らせる。

- 本時のめあてに対する自己評価をさせる。
- 次時から、じんざの気持ちがどう変わっていくかについて読んでいくことを知らせる。